

平成 22 年度 教師海外研修 実践報告

総合的学習指導案

有馬 美和

MIWA ARIMA

福岡市立勝馬学校（福岡県）

担当教科：学級担任 音楽科

●実践教科：総合的学習の時間

●時間数：5時間

●対象学年：全年生

●対象人数：22名

■単元名

フィリピンってどんな国

■指導観

- 21世紀を迎え、世の中は国際化、情報化、科学技術が急速度で進展する一方で、地球環境問題、戦争や国際紛争、貧困、各国間の経済摩擦等、世界中には解決されていない様々な問題が山積みされています。これらは全て国の枠を超え地球規模で考え、解決していかなければならない問題です。これからの社会の動向を見通した場合、子ども達がこれから生きていく21世紀は、ボーダーレスな時代、グローバルな時代であり、諸外国との関わりを無視しては考えることはできません。わが国一国の利害を考えて行動する人間であっては、到底世界各国と共存していくことはできません。今地球上には約70億人の人々が暮らしています。人種、民族、習慣、考え方、皮膚や髪の色は異なっても、誰も同じ人間として心豊かに、よりよく幸福に生きることを願っています。地球上には、自分達と違う文化や考え方をする人々が生活していることを認め、正しく理解し、共に高まっていこうとする気持ちを持つことや、一つの価値観や見方で物事を判断せず、多様な見方・考え方ができる力を養うことは、国際性を身につける上で大変重要です。このような気持ちを持つことによって、日本や外国のよさが分かり、共によりよく生きていくことを考えることができるのです。

このような社会的背景から、今日の国際理解教育に課せられた課題は大きく、とりわけ「共によりよく生きていこうとする子ども」の育成は重要課題であると考えます。そこで、JICA プロジェクトで参加した海外研修「フィリピン」での写真・地図・ココナツの実・ココナツジャムなどの資料を使った学習カリキュラムや研修で学んだ手法を通して、フィリピン国の生活様子や実際に見てきた事を授業化し、自分たちと違う文化や考え方をする人々がいることを子どもたち自信に気づかせる事を学びの入り口としました。そして、学んだ後に自分の事を振り返り、自分の生活や学習・環境を見つめる機会としました。このことを通して一つの価値観や見方で物事を判断せず、多様な見方・考え方ができる力を養うととらえました。

- 本校は、福岡市の郊外にある小学校で静かな地域にあるために子ども達は、素朴で素直な人なつこい子ども達です。そのためか、はじめは様子を伺うところが見られるが、どんなGTに対しても素直に接し、笑顔でコミにケーションがとれています。しかし、いつも受け身であるために、一歩前進して、今ある自分の生活を見直し、視野を広げ多面的な見方や考え方をすることが、できる様になって欲しいと考え授業に取り組みました。




全校の児童22名は1年生から英語体験学習を始め、外国人（イギリス人）であるGTや来訪者と触れ合い英語や外国のことに興味を持っています。11月にはスリランカ人であるGTを招いて交流活動を行いました。スリランカのゲームをしたり、衣装を着たり、キャンディを食べたりしてスリランカの文化や食などを知り感じることができました。また、子ども達はこれらの活動を通して、スリランカでの過去に起きた地震で地形が変わったことや紅茶の産地国であることも知り、自分たちの生活とつながっていることに気づく事ができました。そして、GTの好きなものやスリランカにすんでいる両親・家族のことを知り、GTと話をする楽しさを味わうこともできました。さらに、肌の色、話す言葉は違っても同じ人間であり、分かり合えること好きなものや大切なものは同じであるなどと感想をもつことができました。しかし、低学年では発達段階からも交流をした国がどのような国で、どのような生活をしているかを感じることはできたが、理解するまでにはなっていません。

■実践の目的

- フィリピンは、どのような国かを知らせ、生活の様子や学校の様子を知らせる。
- お互いがそれを理解し合うことから、協力し合って生きていけることにつながることや世界の一人として自分はどうかあればよいのかを見つめさせる。
- 自分の周りにいる人々がどのような状況に置かれ、どのように関わるとよいのかを考える機会ととらえ、子ども達に世界には様々な文化や生活が存在することに気付かせる。

カリキュラム

■授業の構成




時限・テーマ・ねらい	内容・方法	使用教材
テーマ【1時限】 「フィリピンって、どんな国」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めて知るフィリピン ・ 地図を使いフィリピンの位置を確認する。 ・ クイズ形式でフィリピンの概要を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート ・ フィリピンで購入した世界地図 ・ 世界地図のどこにあるでしょう。(プレゼン) ・ ココナツの殻  ・ ココナツ石けん  ・ 笛の楽譜 

時限・テーマ・ねらい	内容・方法	使用教材
テーマ【2時限】 「写真で知る、フィリピン」	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と似ている点や異なる点に気づき、フィリピンを身近に感じる。 ・フォトランゲージの手法で各グループに2枚ずつ渡された写真を手がかりにしてフィリピンの国について読み取れたことを発表する。 ・発表したことについて補足説明をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 <ul style="list-style-type: none"> ① マニラ市内の写真 ② ココヤシの木の風景 ③ パヤタスの授業風景 ・ワークシート
テーマ【2時限】 「JICAの活動について知ろう」	<ul style="list-style-type: none"> ・国際協力について興味関心を持つ。 ・JICAのパンフレットから世界の子ども達の生存率や就学率などを紹介する。 ・JICAが行っている活動を紹介する。 ・フィリピンの青年海外協力隊とシニアボランティアの方の活躍の様子を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 ・ワークシート ・GUIDE TO JICA ・青年海外協力隊員の活躍のDVD

授業の詳細

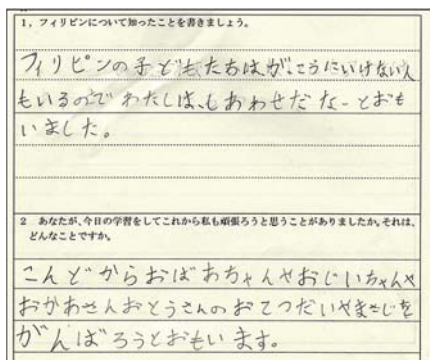
■ 本時の展開（2時目）

学習活動	支援
1. フォトランゲージをしよう。	<p>○ 写真を配りグループ内で、自由に発言をさせる。（都市部分）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: right;">など</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> 観点 <ul style="list-style-type: none"> ・何をしているのだろう。 ・ここはどこだろう。 ・不思議なところはないだろうか。 ・えっと思うことはないだろうか。 </div> <div style="margin-left: 20px; margin-top: 10px;">  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> <ul style="list-style-type: none"> ・日本じゃない ・ビルが少ない ・空の色が違う </div> </div>

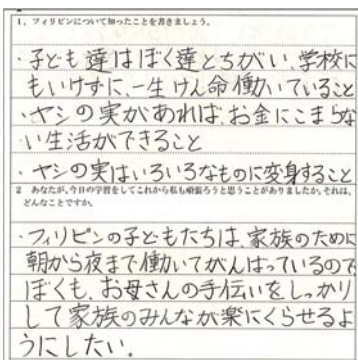
学習活動	支 援
<p>2. 本時学習のめあてをつかむ。</p> <p>フィリピンって、どんな国</p> <p>3. フィリピンについて知る。 生活面（衣・食・住） 文化（音楽・芸術） 子どもの様子 学校の様子 等</p> <p>4. 振り返りとまとめ</p>	<p>○ 写真を配り、自由に発言する。（生活の様子）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: right;">など</p> <p>○ 地図やPCにより、フィリピン国の位置を確認し、フィリピンの様子を知る。</p> <p>○ フィリピンのジャムを食することで、文化にふれさせる。</p> <p>○ 今日の学習で を書く ・初めて知ったこと</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・みんながんばっている。 ・教科書がない。 ・制服がある。 ・クラスの人数が多い。 </div> </div> <p>・自分にできること</p>

成果と課題

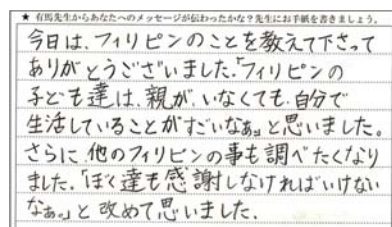
- 子どもたちは、自分たちがよく食べているバナナやマンゴが、フィリピンから輸入され毎日スーパーなどで売られていることを改めて考え、飛行機で三時間半かけて行ける近い国であることを知ることができました。そして、私たちの身近なものでフィリピンがつながっていることに気づき驚いていました。
クイズの形式をとりながら、フィリピンの人口や特産物、位置をとらえていったことは、視覚にも訴え留ることができ、低学年から高学年までの年齢を考慮した学習展開ができたと考え、この方法は効果的でした。
- 毎時間のワークシート（資料1）の活用を行いました。年齢の格差を埋めるための手だてとして、自由に書き込むスペースがあったので自分の言葉で表記できるため一人ひとりの理解できたことやもっと知りたいことを把握することができました。



1年生のノートから



6年生のノート表から



6年生ノート裏から

- 写真やDVDの資料が多くあったこともあり、子ども達に伝えたいことを明確にすることによって資料の選択がやりやすかったです。
- フィリピンに行く前の事前調査を本校や職員にして、渡航したために授業後の子ども達の意識の変容をみることができよかったです。（資料2）
- 授業後は、もっとフィリピンのこどもたちのようにたくさん勉強をしたいという感想が多く見られたのでよかったです。
- フォトランゲージは自分で気づく、見つけるといった作業になるため目に見えることの実事を見ていくのに大変効果的であったと考えます。
- 写真を選ぶときには、何を今学ばせたいのかをはっきりもって選択しないと学習の視点が定まらないので配慮する必要があります。
- フィリピンの授業を行う前に、子どもなのに学校に行けなくてかわいそうやきたくないところにいるなどのマイナスのイメージを持たせないためにどうしたらよいのかを自分自身で検討を重ねました。

参考資料・教材など

ワークシート（資料1）

フィリピンを知ろう NO.1

しあわせの国 フィリピン

12月 22日

めあて
すてきな国フィリピンを知ろう

★
1. フィリピンについて知ったことを書きましょう。

2. あなたが、今日の学習をしてこれから私も頼らうと思うことができましたか、それは、どんなことですか。

★ 右側先生からあなたへのメッセージが届いたかな？先生にお手紙を書きましょう。

（資料2）

Questionnaire
(Sagutan ang mga sumusunod)

We are members of Philippines Study Tour group. We want to know about you more, so please answer some questions. (Tanong kbat sa grupong Pilipino ay magarca: sa ibang lugar. Kaya sagutan ang mga sumusunod.)

Please circle the answer or fill in the blanks. (Isip ka or isulat)

Name (Pangalan) _____
Age (Edad) _____
Sex (Kasarian) Male (Lalaki) / Female (Babae)

1. Are you interested in foreign countries?
(Outo: mo bang pumunta sa ibat-ibang lugar?)
Yes (Oo) / No (Hindi)

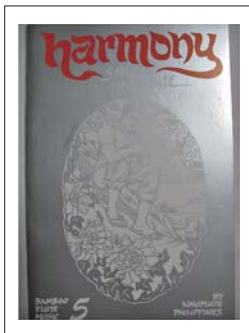
2. What do you think about Japan? (Ano ang imago mo sa Japan?)

3. What is the most important thing for you?
(Ano ang pinakapahalagang para sayo?)

4. What do you want to be (do) in the future?
What's your dream? (Ano ang gusto mo pagkailan mo?)

- ・ GUIDE TO JICA
- ・ 青年海外協力隊員の活躍のDVD
- ・ 写真等
- ・ 笛の楽譜

・ フィリピン音楽CD



世界の子どもの問題

川上 正樹
KAWAKAMI MASAKI

福岡市立当仁中学校（福岡県）

担当教科：社会科

- 実践教科：社会科の時間
- 時間数：1時間
- 対象学年：3年生
- 対象人数：35名×5クラス

カリキュラム

■実践の目的



なんとといっても、上の写真の内容を伝え、感じさせたいと思いました。…この同じ時間帯に隣の場所には小学校があり、授業が行われていた現実。我々日本人の日常とは大幅に異なる世界。この子の日常とその意識を想像すること。貧困な地域に暮らしながらも、心に持つ希望。…などを授業の中で考えさせることができたと思います。

私の勤務校の校区には、家庭間の大きな経済格差が存在します。また、その経済的な厳しさゆえ、将来の見通しや自尊感情が持てずに非行に走ってしまう生徒も生まれています。逆に経済的な豊かさゆえ、差別的な感情を持ってしまう生徒もいます。

そんな私の前にいる子どもたちに、フィリピンのこの子を通して、自身を考えさせる、自身に何ができるのかを考えさせる場ができたと思います。

- ・ 教科書の流れの中に入れ込む形で行いました。
- ・ 公民の教科書 東京書籍
第5章「地球社会と私たち」
6節「世界の子どもの問題」
- ・ 授業のねらいとして、以下の内容を考えました。
 - 途上国、先進国にかかわらず、子どもの課題は存在することを知る。
 - 川上が夏に会った、フィリピンの子ども（働く子ども）・大人からの話を聞く。
 - 「子どもの権利条約」とは、今の我々の暮らしにどんなプラスの影響を及ぼすのかについて考える。

教科書の指導としては、以下の内容をねらいとしています。

- 国によって子どもたちを取り巻く生活環境が大きく異なっていることに気づき、その原因を考える。
- 「子どもの権利条約」の学習を通して、すべての子どもが幸せに暮らすためにどのような権利が保障されているかを理解する。

■ 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	内容・方法	使用教材
<p>【1時限】 テーマ： 世界の子どもの問題 ねらい： 「子どもの権利」の視点から、世界の子どもたちがおかれた現状を考える。</p>	<p>○展 開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チェックテスト 前時の復習のテストを実施、前時の内容の想起をさせるのがねらい。 ・ 班の形にする。 ・ 6枚ほどの写真をみて考え、班での交流、全体への発表。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">「何に見えるか・何をしているのか」</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明を聞く。 ・ フィリピンで会った子どもたち・大人からの話を写真をもとに伝える。 ・ 3分の動画(働く子ども)をみせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">「経済的な格差の存在は、歴然。」</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">「子どもの課題という視点は、世界共通」</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の部分を読む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">「子どもの権利条約」は今の我々(生徒)の生活の何を向上させるのか？」</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 班で考える。 ・ 板書する 	<p>豆テストの配布 (資料1)</p> <p>フィリピンの写真 日本の子どもたちの日常の 写真 (資料2)</p> <p>フィリピンで撮った動画</p> <p>教科書P 152～153</p>

授業の詳細

- ・ 授業のはじめは、日々起こるニュースに軽く触れ、「君たちとこの部分でこのニュースはつながっているんだ。夜のニュースでの国会の様子をみてごらん…」ということをやげかけました。

そして、プリントによる前時の復習を毎回、5分ほどしています。この授業では、前時は「人口・食料問題」の単元で、世界の飢餓問題、南北問題を扱ったものでした。

この復習の意味は、前時の内容を想起させることにねらいがあります。また、家庭学習の定着と小さな達成感をねらっています。それは、本時に入る前夜に家庭で教科書・ノートの見直し・復習をさせることです。プリントのどこかに語群をつけ、全ての子がチェックテストを受ける事が出来るように配慮しています。語群は、生徒からの要望。

以下のものが、前時のおおよその内容です。

世界の穀物生産量のうち膨大な量が家畜のえさとして消費されている実態。また、食料を手に入れることのできない「南」の人がいる一方で、捨てるほど有り余る食料を手に入れ、かつ、家畜を食べることで穀物の消費量をいっそう増やしている「北」の人がいるという現状。

→ハンガーマップ・南北問題・南南問題

世界の食料問題は、先進工業諸国の問題でもあること。教科書のコラム欄に、アメリカ・日本の食べ残し量について触れてあり、日本は1600万トンであり、それに対し、世界の食糧援助総量は1000万トンであると記載されていることについても触れた。

→エチオピアのききんの写真

- ・ 私は授業の展開は、本日のメインをどう印象に残すかが一番大切と考えています。いわゆる、「つかみ」の部分です。生徒の動きのみからすると、授業の最初からこの時間まで、机を見ている姿勢が中心で、個人の作業になっています。ここで、全員が同じ「もの」を見て・聞いて・読んで・匂って・触って…共通の同じ「体験」がいるし、その「体験」が大切です。学力の「高低」に関係なく、全ての子が体験から答えられるものがあれば…といつも思います。

今回は、この部分に日本・フィリピンの写真を多用しようと考えました。

《写真として》

- ・ 塾のためにファミレスで孤食している日本の子ども
- ・ 虐待死した子どものへのお供え物の前で手を合わせる日本の女性
- ・ 子ども兵士から逃れたが捕まり、鞭打ちを受けたアフリカの子どもの背中
- ・ ガソリンスタンドで雑巾片手にチップをもらうフィリピンの子どもたち
- ・ ゴミの山が見える教室の中で、私たちを笑顔で歓迎してくれたフィリピン子どもたち
- ・ 隣では授業が行われている同じ時間に、山のような汚れたペットボトルを洗うフィリピンの子ども（一部が見えないように隠した）

子どもたちに提示する前に、机を班の形にさせます。ねらいは、意見交流。学年の子どもたちは、私の今までの経験においても、集団の前で自身の意見・考えを述べる事はかなり少ないほうです。子どもたちは、小学校時代から「荒れ」の体験があり、集団で許しあう雰囲気、集団で笑った、楽しめた体験などが少なかったと感じます。2年時に子どもが書いた文章に「学校で笑っていいと？」という表現があり、納得するものがありました。

それゆえに、班で意見を交流させることは重要です。班ができたことを確認後、正面黒板にこれら

の写真は次々と貼りました。

アフリカの子どもの写真は、とても悲しい写真であるが、背中のクローズアップで少し見ただけではわからない。子どもたちは班内で「なんやーあれ！」など疑問やウケ狙いの言葉を小声で言っていました。(その写真の説明になった時、厳しさゆえ深刻になり、逆に聞き入る雰囲気になったのだが。)

貼り終わると、「何に見えるかな？何をしているのかな？」と質問し、「班内で意見交流」と伝えました。

3分ほど時間が過ぎたところで、各班よりその写真が何に見えるかを発表してもらいました。

予想された声が出されたが、アフリカの写真の説明では、上記のような感覚になりました。

一通り写真を簡単に説明した後、

「日本とそれ以外では、ハッキリと経済的な格差がある。そのことは、事実だ。しかし、どの国でも子どもたちへの課題が存在していることがわかると思う。」

そこから、フィリピンの写真に注視させるように「この写真を撮ったのは、私だ」と引き付けて、「ペットボトル洗いの子ども」の名前を伝えました。

そこから、その子との出会いの場面、彼が言ってくれたコメントなどを詳細に話し、動画（1分ほどのもの）を上映しました。

「彼は、日銭を稼いで明日は、学校に行くと言ったよ」

「いつからこの仕事をしているか、忘れてしまった」

「将来は、警察官になりたい」

また、同じ場所で働いていた17歳の少年は

「きょうだいのために、学費を稼いでいるんだ」

「将来の夢なんて、もう忘れてしまったよ」

また、現地には日本のNGO ソルトパヤタスが入っており、奨学金の給付やその他の支援活動を積極的に行っており、現地の方との信頼ができていることも伝えました。

ここの時点で、授業の3分の2以上の時間が過ぎていました。今後の課題。

とにかく、この単元を終わる意味でも、「どの国でも子どもたちへの課題が存在している」ことに戻り、教科書に準じた流れにしました。

「世界中の子どもたちの課題・問題に光をあてているものがある。それが子どもの権利条約だ」

というふうに進めました。

身近な例では、特別支援学級や学校の問題も、子どもの権利委員会で指摘されていて、この指摘に対し日本政府は、改善の努力を行ってきた部分があると伝えました。

感想・成果と課題

年度末に私の授業評価を生徒にしてもらいました。5～1をつけ、その理由も書くものです。また、印象に残った授業の内容を書いてもらうコーナーも設けました。

その印象に残った内容に、映像やクイズ、写真、実物という狙い通りのものが並びました。フィリ

ピンの話もかなりの生徒のプリントに出てきており、印象に残ったものとなったようです。

生徒の今後の思考回路の1パーツとなっていることを期待したいと思います。

「豊かな」国に生まれた我々ができる事は、経済格差をなくしていく具体的な支援とともに、自分らの身近なことも含んだ、経済格差ゆえに自尊感情や進路を見出す力を失った仲間に対し、その子らだけの責任でないという認識を持つことでしょう。

また、経済格差を抜きに見た場合、「生きていく」ことは何なのか。希望を持ちつつ、生きていくことは何なのかを、厳しいなかで働くフィリピンの子どもは教えてくれたと思います。

一方、教えていく側の教師、私たちも日々の忙しさの中で見失いがちな「教育」の大切さ、這い上がる為に教育にかける人々の思いを知る機会になり、目の前の生徒に対しても、もっとこだわって大切に接していくことを教えられたものとなったと思います。

今回の授業の中では、扱っていないが、現地に派遣され活躍されている日本の警察の方の声も印象深い。

「日本の安全レベルは、異常なほど高いんだ。平均的なレベルから見ると、ある意味、日本はかなりの管理状態であることもわかる必要がある」

今後の授業の中で、どうにかして扱っていきたい内容です。

今後の自分の授業の様々な場面で、実体験を踏まえたフィリピンの資料は多用していきたいと思っています。

参考資料・教材など

(資料1)

なんでや? 公民プリントNo. 44 P. 153~154 月 日

チェックテスト39 : P150 ~ 151 ◆わからなければ、調べよう。

- ① 世界の人口増加率は、南アジア・東南アジア・アフリカなどのおもに地球の()側に位置する()国で著しく、2025年には、人類の6人に()人がそれらの国々の人で占められる。
- ② 世界には、栄養不足の人たちが世界で()億人以上いる。
- ③ 発展途上国と先進工業国との経済的な格差とそこから発生する様々な問題を()問題という。
- ④ ()以南)のアフリカの国々との他の発展途上国との経済的格差の問題を()問題という。
- ⑤ 為替相場の問題です。次の文を読み、以下の問いに答えよ。

1ドルが100円だったが、時間がたち、1ドルが90円になった。

 - ・このことを表す、正しい文するため()をうめなさい。
これは「 」であり、外国通貨に対して円の価値が()ことで、()が有利になる。
- ⑥ 「持続可能な開発」とは、なにか。次の語句を用い、簡単に答えよ。(環境保全 同時)

(資料2)



フィリピンを知ろう／大切なものは何ですか？ 世界で活躍する日本人

小島 夕季

KOJIMA YUKI

福岡市立筥松小学校（福岡県）

担当教科：2学年

●実践教科：社会・道徳

●時間数：3時間

●対象学年：6年生

●対象人数：34名

カリキュラム

■実践の目的

- 飛行機でわずか3時間半で着くフィリピンという国の概要を知り、異文化に対して興味をもつ。
- 世界には、様々な困難な状況の中でもひたむきに一生懸命生きている子どもがいることを知り、自分たちのこれからの生き方を見直したり、考え直したりする。
- 青年海外協力隊や、NGO団体などの活動を伝え、日本人として開発途上国の生活向上のために努力している人たちの生き方を知り、ボランティア活動に興味をもつ。

■授業の構成

時限・テーマ・ねらい	内容・方法	使用教材
【1時限】 社会 テーマ： 【フィリピンって、どんな国】 ねらい： 初めて知るフィリピンについて、興味をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・地図からフィリピンの位置を確認する。 ・食べ物について知る。 ・乗り物について知る。 ・フィリピンの小学生と、自分たちとの共通点や違いを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント作成資料（写真・地図・動画） ・フィリピンで購入した地図 ・ヤシの実 ・ワークシート（児童）
【2時限】 道徳 テーマ： 【フィリピンの子どもたちが、家族や勉強を大切に思う心について考えよう】 ねらい： 学校に行けない子どもたちの願いを知るとともに、自分の生活に対する姿勢を振り返る。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分たちと、フィリピンの子どもの大切なものを集計した円グラフを提示し、同じところや、違うところを考える。 2. ジョーベン君のことを知る。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 週に2回しか学校へ行っていない。 (2) ペットボトル洗いをして、お金を稼いでいる。 (3) ジョーベン君の気持ちを考える。 (4) 8時間働いて200円の報酬を得ているところを知る。 (5) ジョーベン君の大切なものについて知り、その理由について考える。 	集計した円グラフ、プロジェクタ、フィリピンの少年のビデオ、写真、道徳学習プリント

時限・テーマ・ねらい	内容・方法	使用教材
3時限【社会】 テーマ： 【世界で活躍する日本人】 ねらい： 青年海外協力隊や、N G O 団体などの活動を伝え、日本人として開発途上国の生活向上のために努力している人たちの生き方を知り、ボランティア活動に興味をもたせる。	・ 青年海外協力隊について知る。。 ・ ソルトパヤタスの活動について知る。 ・ ソルトパヤタス代表の小川さんの思いについて知る。	・ 活動の写真 ・ 小川さんからのビデオレター

授業の詳細

【1 時限】

担当学年が2年生のため、内容を考慮し6年生のクラスを借りて授業を行いました。6年生は、社会科日本と関係のある国について調べ学習を終えた後だったので、その内容からつないで『飛行機で3時間でいける、とても近くの国について学習をしましょう。』と、導入を行いました。

学習前に、クラスの子ども達にとっていたアンケートでは、9割の児童が、「フィリピンという名前をどこかで聞いたことがあるが、『バナナの輸入が有名』ということくらいしか知らない。」という結果であったため、まずは地理的情報、それから食べ物、乗り物のこと、最後に小学校について紹介をしました。パワーポイントの資料や、現地で購入した地図、また頂いたココナッツの実（資料1）などを見せながら授業を行いました。

授業後の児童の感想では、ほとんど知らなかったフィリピンのことを知り、興味をもった様子が伺えました。

【児童の感想】

- ・ 名前は聞いたことがあったけど、3時間半で行けるほど近くにある国なんて知りませんでした。私たちと同じように、フィリピンでも子どもたちが勉強をしていることを知り、うれしくなりました。
- ・ フィリピンのことは、バナナくらいしか知らなかったけど、他にもいろんな食べ物がありました。ココナッツをしばっているところを見て、ココナッツミルクは、ああやって作るんだということを知りました。次の学習も楽しみです。
- ・ フィリピンのジープニーという乗り物を始めてみました。日本では見たことがないから、いつか乗ってみたいです。
- ・ フィリピンの人たちの写真を見ると、みんな笑顔で明るそうでした。もっと、フィリピンという国のことを知りたくなりました。

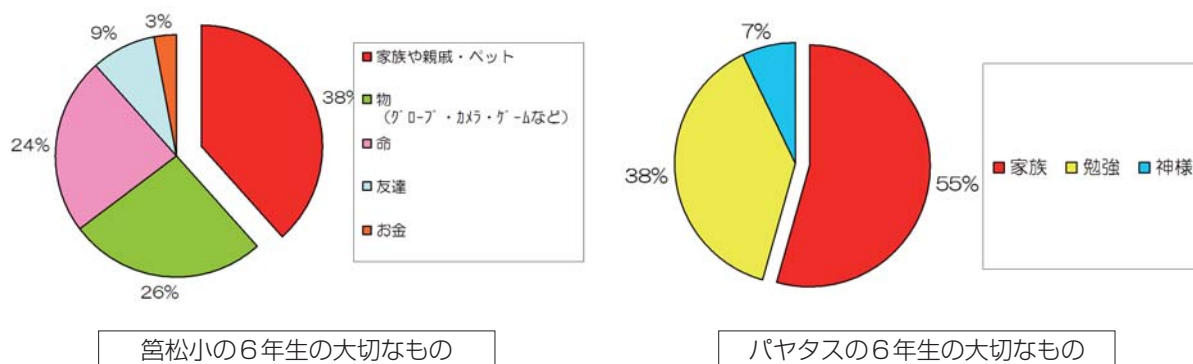


使った道具（資料1）

【2 時限】

まず導入では、前時の感想を紹介し、事前にとっていたクラスのみんなの大切なものと、パヤタスの小学生の大切なものをまとめた円グラフを提示しました。(資料2)

(資料2)



どちらも1番目、2番目に多いものを伏せて提示し考えさせた。大切なものの1番目はどちらも家族であったが、2番目は、日本の児童は『物』を挙げていたのに対し、パヤタスの小学生は『勉強』と答えたことに、児童からは驚きの声があがった。それからめあてにつなげていきました。

展開では、パヤタスのごみ山のふもとで暮らすジョーベン君の顔写真を提示しました。その後、彼が何をしているかが分かるように、ペットボトルを洗っている彼の動画を見て、学校に行きたいが、家族のために仕事をしているということを伝えました。

この時、児童には、ジョーベン君の気持ちになってふきだしを書かせました。(資料3)

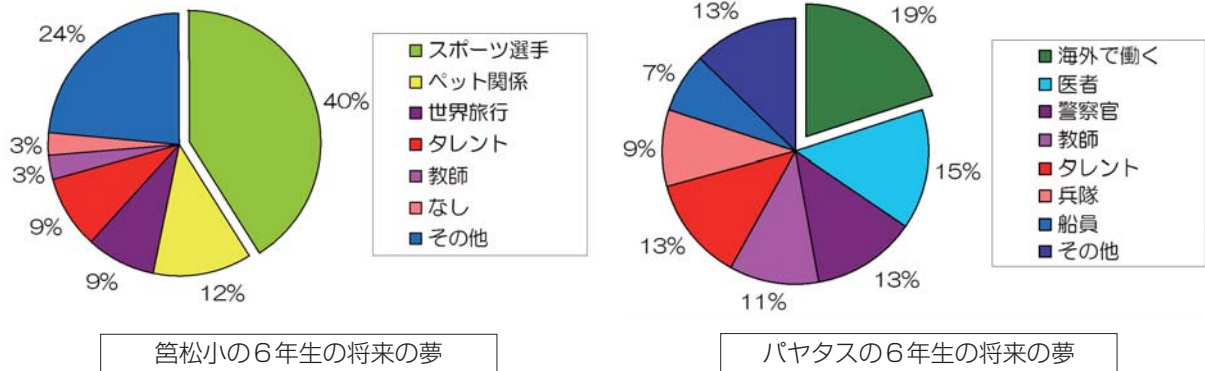
マイナスの意見もプラスの意見も自由に書けるように、自分だったらどう思うかを書くよう指示をしました。

【児童の書いたふきだし】(資料3)

- ・ ああ。きつい。8時間も働いていて疲れたよ。友達と一緒に遊びたいな。
- ・ もっと楽な仕事をしたいな。
- ・ 本当は勉強をしたいんだけど、ぼくが働かなかったら、家族がご飯を食べることができなくなってしまう。だからもっと頑張ろう。
- ・ 家族のために、好きなこともがまんをしなくっちゃ。

その後、考えたことを発表していき、マイナスイメージだけを書いた児童に「きついよね。じゃあやめてしまったらいいんじゃない？」と問い返していきました。すると児童は「本当はきついし、やめたいけど、家族のためにはやめられない」と考えを深めていきました。それから、ジョーベン君の将来の夢や、パヤタスの小学生の将来の夢を紹介しました。(資料4)

(資料4)



日本の子どもに比べ、自分の夢だけではなく、家族を養うための夢も多くあることき気づかせていきました。

終末では、ジョーベン君と自分を比べて感じたことを感想で書かせました。(資料7)

【児童の感想】(資料7)

- ・ ジョーベン君は、えらいなと思いました。私と比べると自分の好きな夢を選んだりするけど、ジョーベン君は、家族のことを第一に考えて、お金をかせいで家族に少しでも楽をしてもらいたいと思っていることが伝わってきました。
- ・ フィリピンの方は、自分たちと比べて、自分のことより家族のことをおもっているの、やさしい心をもっているのだと思いました。
- ・ 勉強のことは、私はそんなに大切ではないと思っていたけど、フィリピンの事を学習して、勉強はとても大切な物なんだなあと思いました。
- ・ フィリピンの子ども達は、自分の事でなく、家族のために仕事をしていて仕事をしていてすごいと思いました。ほくは自分のことしか考えてないから、子どものときからこんなことを思っていることはすごいと思います。

また、「フィリピンでは、まだ大人じゃないのに仕事をしたりしている人がいるなんて知らなかった。」という感想もあがっていたので、児童憲章などで、子どもを守る法律があり、本来ならば許されることではないということをお口答で補足しました。



本時の板書 (資料5)

【3 時限】（未学習）

前時の学校に行けない子どもたちに対して、「どうにかしないといけない。」と考え、立ち上がった日本人がいる、という導入でソルトパヤタスの紹介をします。ソルトがどのような活動をしているのか、そしてどんな思いをもって活動をしているのかを、写真や、小川さんの取材ビデオレターを通して考えていきます。

という授業を構想していたが、6年生の授業の関係で実践することができませんでした。学校内にある、ワールドルームにて、ソルトパヤタスからいただいた写真などに補足説明を加え数週間掲示しました。6年生児童が進んで観覧に来る姿が見られました。

成果（○）と課題（●）

- 今まで知らなかったフィリピンという国を、より身近に感じるさせることができ、もっと知りたいという意欲をもたせることができました。
- フィリピンの子どもと、自分の大切なものを比べ、自分自身の生き方を考える機会を作ることができました。
- フィリピンの子どもたちが、家族を大切に思っていることに気づかせることができました。
- 《自分のことで》ソルトパヤタスの事務所へ取材に行き、研修で得たこと以上に、ソルトパヤタス、そして小川さんの思いを知ることができました。
- 一部の子どもは、客観的な視点でフィリピンの子どもの生活についての感想を書いていました。発問や指示が足りなかったように考えます。
- 自分の学級で授業を行えなかったため、当初の予定（3時間）を行うことができませんでした。実践できなかった第3時限は、必ず自分が高学年をもった際に授業として行いたいと思います。

参考資料・教材など

① パワーポイント作成資料一覧



② 本時（第2次指導案）

道徳学習指導略案

平成23年2月16日

授業者 小島 夕季

- 1 主 題 名 国際理解
- 2 資 料 名 自作教材 高学年 4 - (8)
- 3 本 時 平成23年2月16日（水曜日） 6校時
- 4 本時目標
- 学校に行けない子どもたちの願いを知るとともに、自分の生活に対する姿勢を振り返ることができる。
- 5 準 備 集計した円グラフ、プロジェクタ、フィリピンの少年のビデオ、写真、道徳学習プリント
- 6 本時の展開

	学習活動と予想される児童の反応	教師の支援
導入	<p>1. 自分たちと、フィリピンの子ども達の大切なものを集計した円グラフを提示し、同じところや、違うところを考える。</p> <p>【同じところ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族を大切に思っている人が一番多い。 <p>【違うところ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちは物を大切に思っている人が多い。 ・ フィリピンは半分以上の人が家族が大切と思っている。 ・ フィリピンは家族と勉強が9割を占めている。 ・ どうしてこんなに違うのかな。 	<p>※ 事前にアンケートを取ることで、フィリピンの子どもと自分たちの大切なものを比べるようにする。</p> <p>※ 違うところに目を向けさせ、めあてにつなげていくようにする。</p>
<p>フィリピンの子ども達が、家族や勉強を大切にしようと思う心について考えよう。</p>		
展開	<p>2. ジョーベン君のことを知る。</p> <p>(1) 勉強が大事だけど、週に1回しか学校へ行っていないことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうしてかな。 ・ 学校がきれいなのかな。 <p>(2) ペットボトル洗いをし、お金を稼いでいることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1日に8時間働いている。 ○ 家族のためにお金を稼いでいる。 <p>(3) 働いているときのジョーベン君の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校に行きたいな。 ・ やめたいな。 ・ きついな。 <p>(4) 8時間働いて200円の報酬を得ていることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ こんなに働いたのに安すぎる。 	<p>※ 最初は、顔写真のみを提示し、何をしているかわからないようにする。</p> <p>※ 働いているジョーベン君の動画を用意し、状況を把握させていく。</p> <p>※ プリントに自分の意見を書き込むよう指示をする。</p> <p>※ 机間巡視をしながら、全体の意見を把握するようにする。</p>

	学習活動と予想される児童の反応	教師の支援
終末	<p>(5) ジョーベン君の大切なものについて知り、その理由について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○勉強をすることが大切だ。 <ul style="list-style-type: none"> ・生きていくために勉強が大事だと思っている。 ・今よりもたくさんお金を稼ぎたいから。 ○家族のために沢山お金を得ることができたいという子どもが沢山いる。 <p>3. フィリピンの子どもの夢を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○海外で働く、医者、警察など ○自分の夢というより、家族のために沢山稼げる仕事を夢にもっている子どもが多いことを伝える。 <p>4. 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家族のために行動をしている。 <p>5. 「今日の学習で」を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィリピンの子供達は自分のことだけでなく、家族のことまで考え行動していてすごいと思う。 ・私もがんばりたいなど、思う。 	<p>※ プリントに自分の意見を書き込むよう指示をする。</p> <p>※ 円グラフを提示し、視覚的に分かりやすいようにする。</p>

③ ソルト小川さんの写真

